

2015年3月卒者(大学・大学院卒) 「新卒者採用に関する追加調査」 集計結果報告

公益財団法人就職支援財団が、県内企業の2015年3月卒業予定の新卒者(大学・大学院卒)採用活動の8月時点での状況について調査いたしました。

調査の趣旨

この調査は、静岡県内企業における新卒採用活動の現時点での進捗状況を収集し、学校・学生へタイムリーに情報を展開することで、今年度の企業の採用活動、学生の就職活動への対応策提言の資料としていく。

調査要領

■調査対象

静岡県内企業の経営者もしくは人事担当者

従業員数: 49名以下32.2%、50～99名26.3%、100～299名25.2%、300名以上16.2%

業種: 製造業29.2%、建設業14.7%、卸売・小売業20.2%、サービス業30.3%、その他5.7%

■調査期間

2014年8月9日～2014年8月31日

■調査方法

2014年3月実施「新卒者採用に関する実態調査」(しずおか産学就職連絡会)の調査票送付先2,500社に調査依頼文を郵送し、WEBサイトにてアンケート回答

■有効回答数

456 サンプル (有効回答率 18.2%)

※集計は、調査対象のプロフィール以外、非該当・不明を除いて実施。また、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、合計が100%にならない場合がある。

<調査に関する問い合わせ先>

公益財団法人 就職支援財団

担当: 鈴木

TEL 054-271-3111

【総括】	3P
------	----

【調査結果】

I. 2015年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動実施状況	4P
II. 採用活動終了企業の活動実績および今後の予定について	6P
III. 採用活動全体の印象および選考プロセス毎の前年度比較	7P

【参考資料】	11P
--------	-----

- ※1 静岡産業大学での「社員・学生との交流会」参加学生アンケート結果(一部抜粋)
- ※2 しずおか産学就職連絡会「就職活動・採用活動に関する実態調査」結果(一部抜粋)

採用活動継続企業および今後の採用予定人数が増加～採用活動は長期戦の様相を呈す（図表1～7）

採用意向のある企業のうち、現在募集および今後募集予定のある企業の割合は6割と前年を上回っている。8月以降の採用予定人数も前年を上回っており、特にサービス業、卸売・小売業を中心に苦戦している様子が伺える。また、前年よりも採用予定人数に拘る企業が増加しており、その分採用活動終了時期が来年3月までと、最後まで予定人数を追いかける長期戦を覚悟している企業が多い。

採用活動を終了した企業も不安を抱えている（図表8～10）

一方、採用活動を終了した企業は前年よりも早期に終了した割合が増加している。ただ、前年に比べて採用予定人数が未達でも終了している企業が増えているのは、状況の厳しさを反映しているとも言える。今後採用活動を再開しないとしている企業が前年よりも減少していることから、そもそも採用予定人数に達していないことに加え、後述の内定辞退の増加などにより、採用活動を終了した企業も不安を抱えているのではないかと推察される。

厳しい採用環境～従業員規模により異なる問題を抱えている（図表11～24）

7割弱の企業が前年よりも採用活動が厳しくなっていると感じている。中でも応募者数の確保に最も厳しさを感じており、特に従業員規模の小さい企業にとっては深刻な問題となっている。逆に従業員規模の大きい企業にとっては内定辞退者の増加が問題となっている。実際に採用活動の全てのプロセスで、半数以上の企業が、前年よりも接触学生が減少していることから厳しさが伺える。

就職活動学生は、いかに企業の情報を入手するかが重要

採用活動継続企業および今後の採用予定人数が前年よりも増加しており、就職活動学生にとっては状況が改善されているといえる。業種ではサービス業、卸売・小売業の求人が多いが、製造業の求人数も前年よりも増加している。企業側が応募が少ないことを問題にしていることから、まず応募に繋がるアクションをいかに起こすかが大切となる。直接企業の社員と会って話をすることで、その企業への志望度が増す（※1）ことから、合同説明会など直接企業の担当者に会える機会に積極的に参加して、直接情報を入手するやり方が効果的だと考える。

採用継続企業は、いかに学生に情報を届けるかが重要

現在も採用活動を継続している企業は、現状の厳しさを考えると、採用活動のやり方を見直す必要があると推察される。応募者の確保、内定辞退者の抑制が大きな課題となっているが、いずれもいかに学生に情報を届けるかが鍵となるのではないかと推察される。

応募者の確保については、学生が社員との交流で志望度合いが高まることから（※1）、学生に近い若手社員が直接情報を伝える等、伝える手法に工夫をしたい。

内定辞退をいかに抑えるかについては、内定理由を具体的に伝えることが有効（※2）なので、ぜひ実践することをお勧めしたい。

※1...2014年7月16日静岡産業大学での「社員・学生との交流会」参加学生アンケート結果より

※2...2014年5月発表 しずおか産学就職連絡会「就職活動・採用活動に関する実態調査」結果より

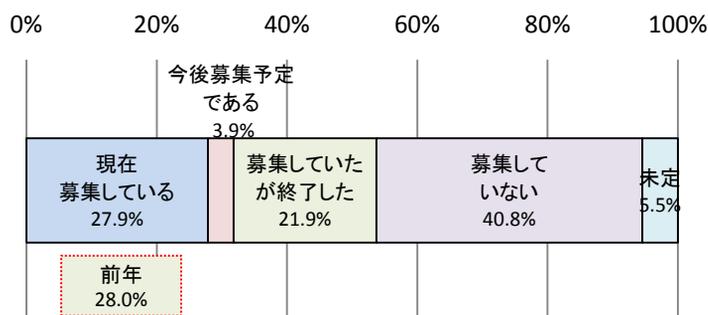
【調査結果】

I. 2015年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動実施状況

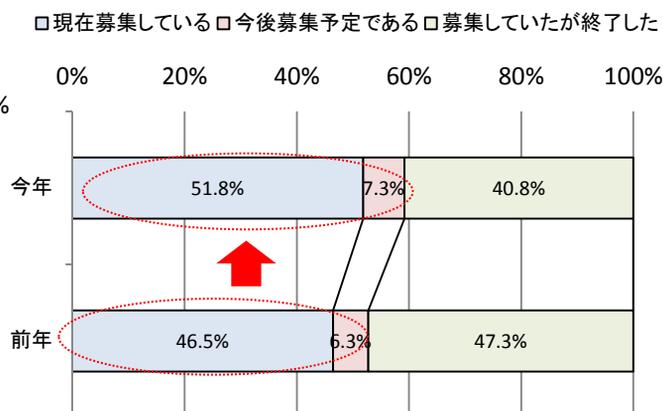
<TOPICS>

- ・採用活動を継続している、あるいは募集予定のある企業は全体の3割弱(図表1)。採用意向のある企業に絞ると、前年調査時の数値を上回る5割超の企業が採用活動を継続している(図表2)。業種別では建設業、サービス業で採用活動を継続している企業が多い(図表3)。
- ・8月以降の採用予定人数では、前年調査時を上回る76%の企業が「2名以上」としており、1社あたりの採用予定人数は増加している(図表4)。全体の採用予定人数を実数で算出すると、「サービス業」「卸売・小売業」が全体の68%を占めており、その割合は前年を8ポイント上回っている(図表5)。
- ・採用活動を終了する条件は「計画人数に達するまで」が84%と、前年を35ポイント上回っている(図表6)。
- ・採用活動の終了予定時期は「来年3月」が24%と最も多く、「12月」が21%と続いており(図表7)、前年調査と比べて4~5ポイント増加している。

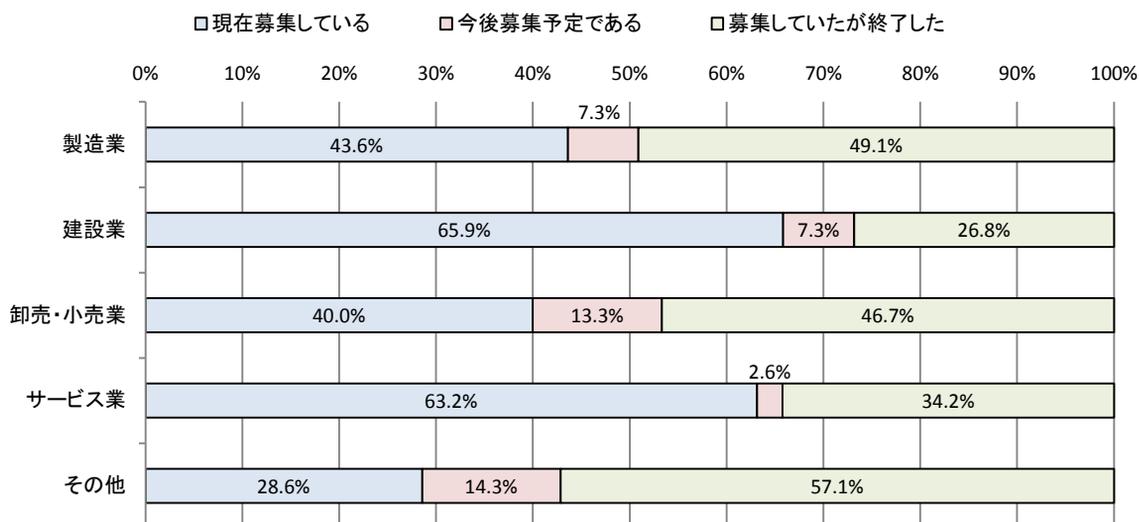
(図表1)2015年3月卒者の採用募集状況(n=456)



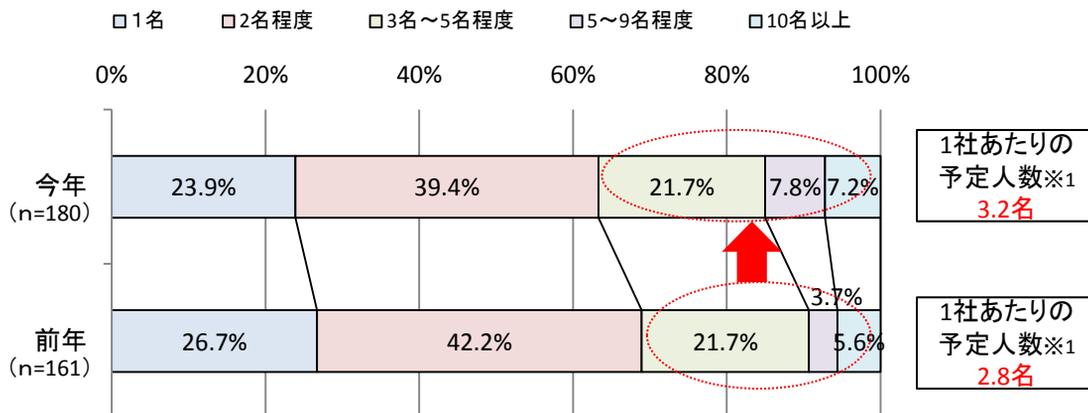
(図表2)採用意向のある企業の活動継続率(n=245)



(図表3)業種別:採用意向のある企業の活動継続率(n=245)

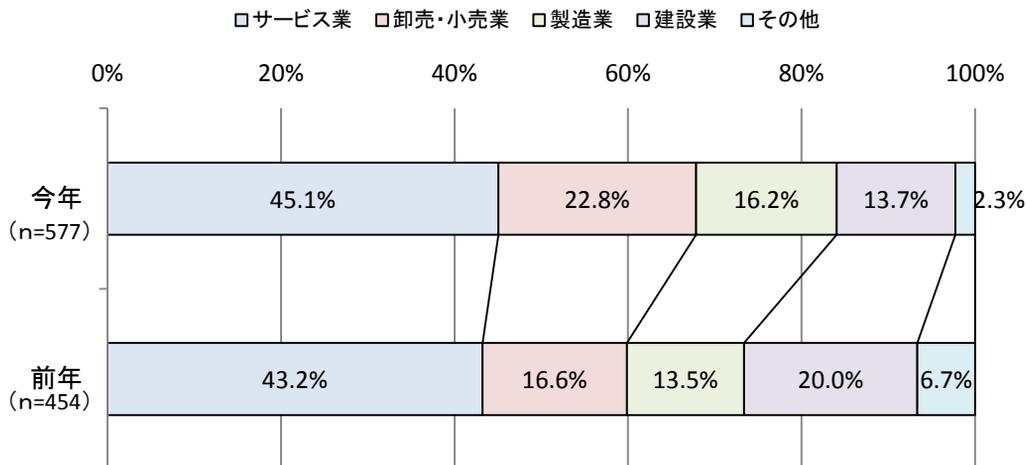


(図表4)8月以降の採用予定人数

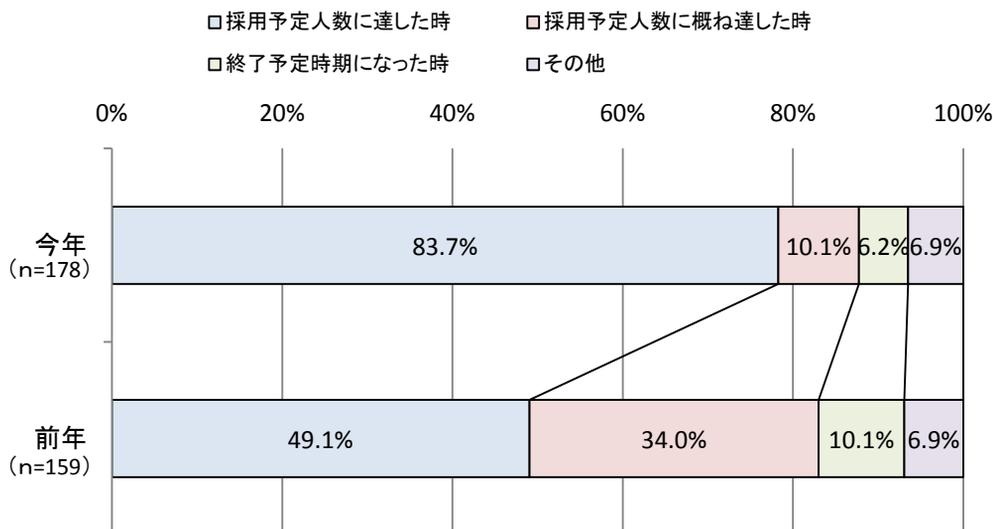


(図表5)採用予定人数実数※1における業種別割合

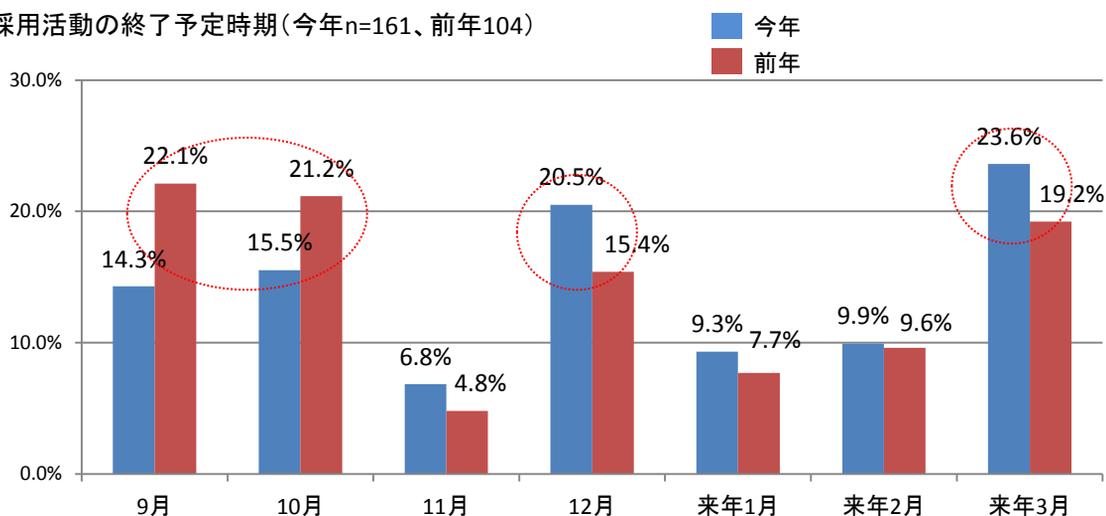
※1採用予定人数×社数で計算(3~5名、6~9名は中間値にて計算)



(図表6)採用活動を終了する条件(n=287)



(図表7)採用活動の終了予定時期(今年n=161、前年104)



II. 採用活動終了企業の活動実績および今後の予定について

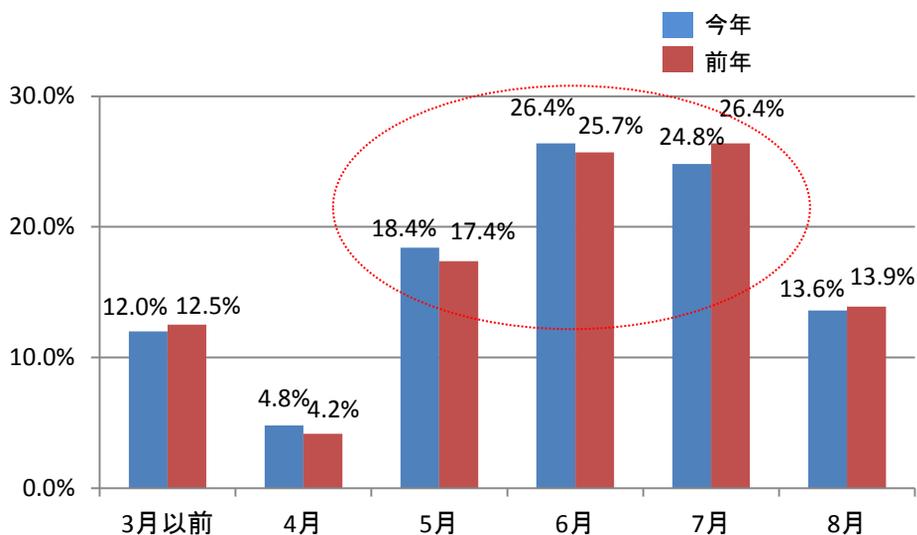
<TOPICS>

・採用活動の終了時期は「6月」が26%と最も多く、次いで「7月」が25%と続いている(図表8)。前年調査と比べると、「4月」「5月」「6月」に終了した企業の割合が増加している。

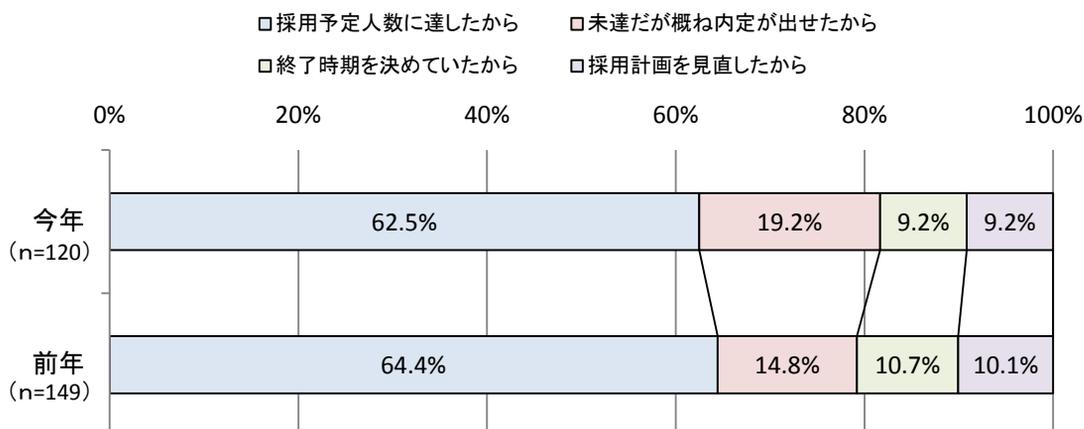
・採用活動の終了を決めた理由は「採用予定人数に達したから」が63%と最も多いが、前年調査より2ポイント弱低下しており、採用予定人数に達していなくても採用活動を終了している企業の割合が増加している(図表9)。

・採用活動を再開する可能性がある企業は11%。前年調査に比べると、再開する可能性がない企業の割合が5ポイント弱減少している(図表10)。

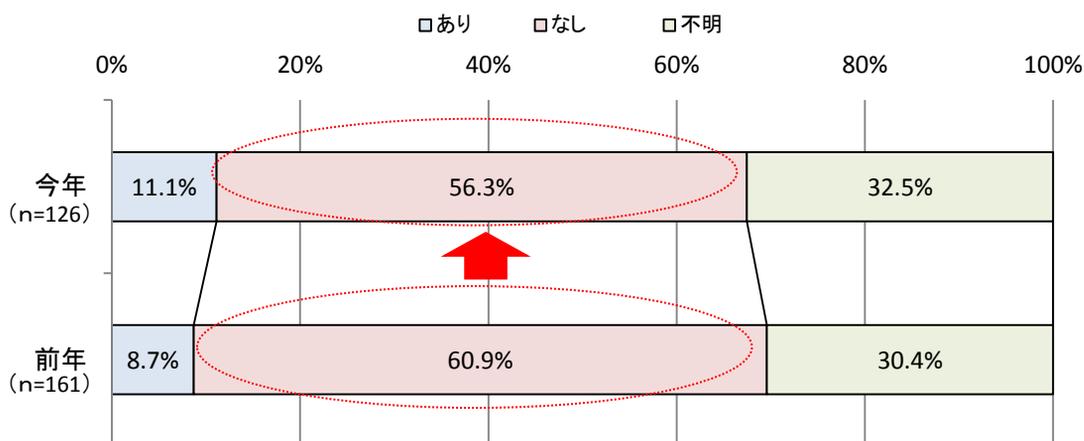
(図表8)採用活動を終了した時期(今年n=125、前年n=144)



(図表9)採用活動の終了を決めた理由(複数回答)



(図表10)採用活動を再開する可能性



Ⅲ. 採用活動全体の印象および選考プロセス毎の前年度比較

<TOPICS>

・前年度と比較した採用活動の状況は、「厳しくなった」と感じている企業の割合が67%となっている(図表11)。業種別では、「卸売・小売業」「サービス業」が7割程度と他の業種よりも多くの企業が厳しいと感じている(図表12)。厳しいと感じている企業が、選考プロセスの中で特に厳しいと感じているのは、「応募者数」で53%(図表13)。企業規模別では「49名以下」の企業が76%が「応募者数」としており、企業規模が少ないほどその割合が高くなっている(図表14)。

・応募者数は「前年よりも減少した」企業の割合が54%と最も多く、前年調査を23ポイント弱上回っている(図表15)。企業規模別では「50名以上」の企業が5割が減少したと回答(図表16)。業種別に見て「前年よりも減少した」割合が高いのは、「建設業」「卸売・小売業」「サービス業」(図表17)。

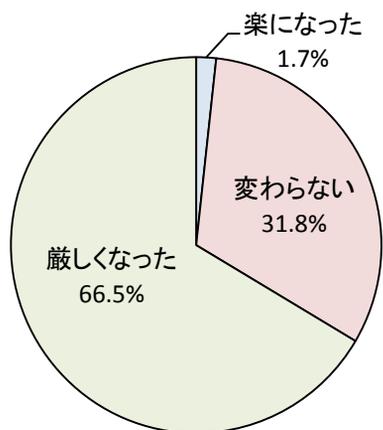
・会社説明会参加者数は「前年よりも減少した」企業の割合が54%と半数を超えている(図表18)。

・面接者数は「前年よりも減少した」企業の割合の方が53%と半数を超えている(図表19)。

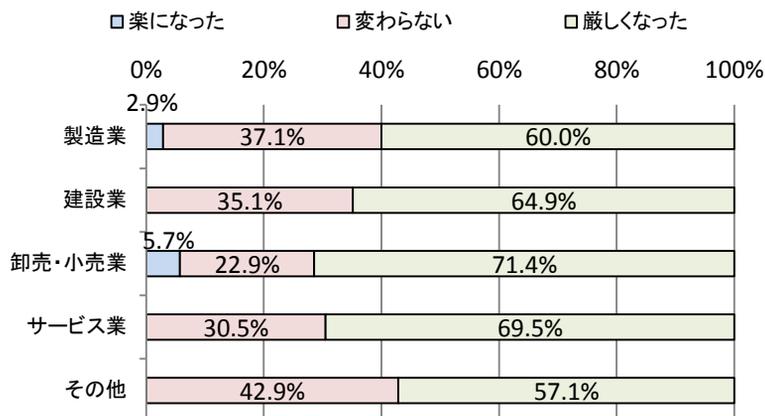
・内定を出している企業のうち、68%の企業に内定辞退者がでており、前年調査を8ポイント弱上回っている(図表20)。従業員規模別では、従業員規模に比例して辞退者ありの割合が多くなっており、「300人以上」の企業では83%が辞退者ありと回答(図表21)。業種別では、「卸売・小売業」、「サービス業」が他の業種に比べて高くなっている(図表22)。

・内定辞退者数は「前年よりも増加した」企業が35%と、前年調査よりも8ポイント弱上回っている(図表23)。従業員規模別では、従業員規模に比例して「増加した」割合が多くなっている(図表24)。

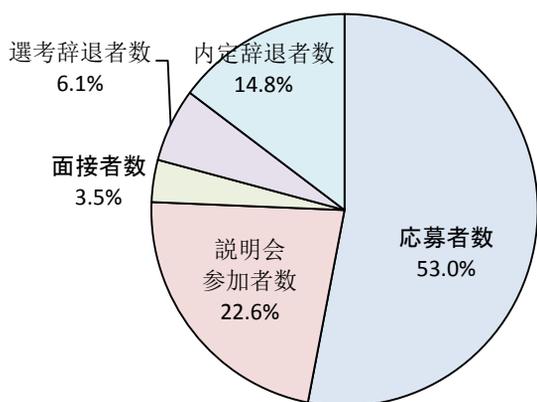
(図表11)前年度と比較した今年の採用活動状況 (n=173)



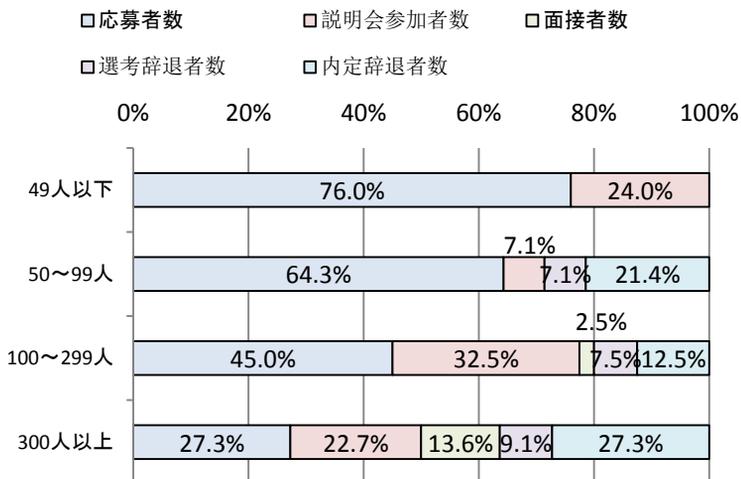
(図表12)業種別:前年度と比較した今年の採用活動状況



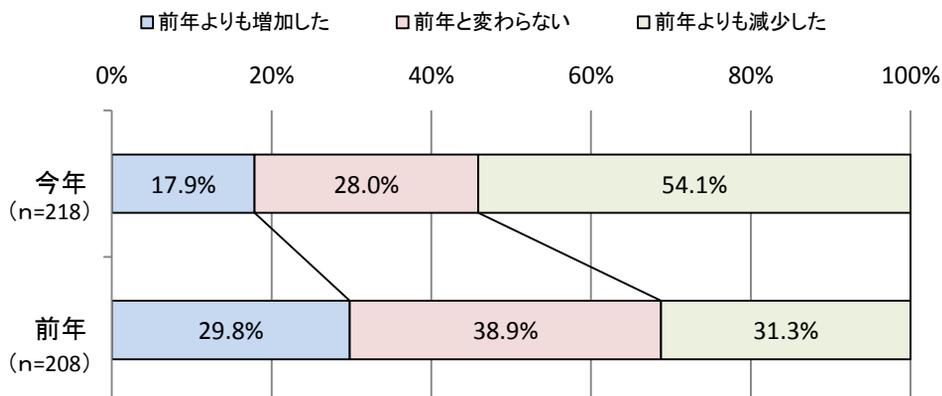
(図表13)選考過程で最も厳しいと感じたもの (n=115)



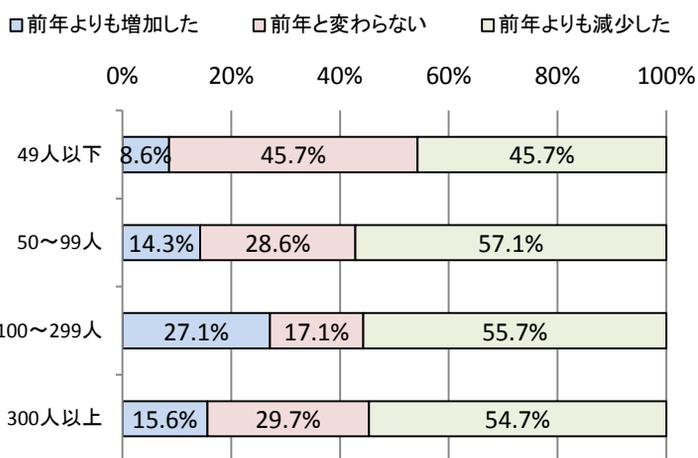
(図表14)規模別:選考過程で最も厳しいと感じたもの



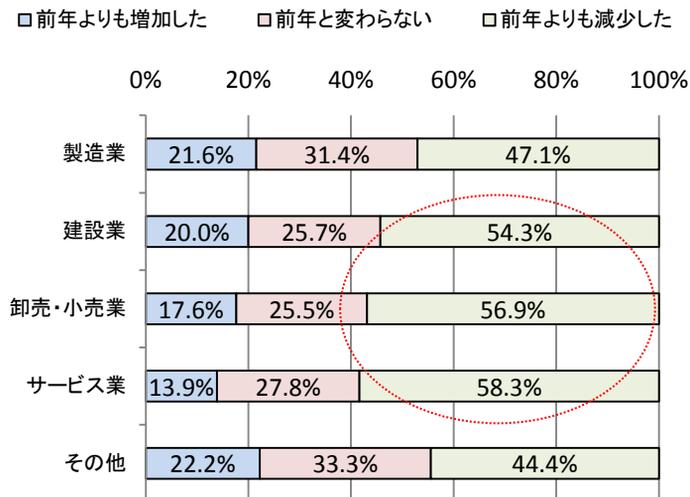
(図表15)応募者数の前年度との比較



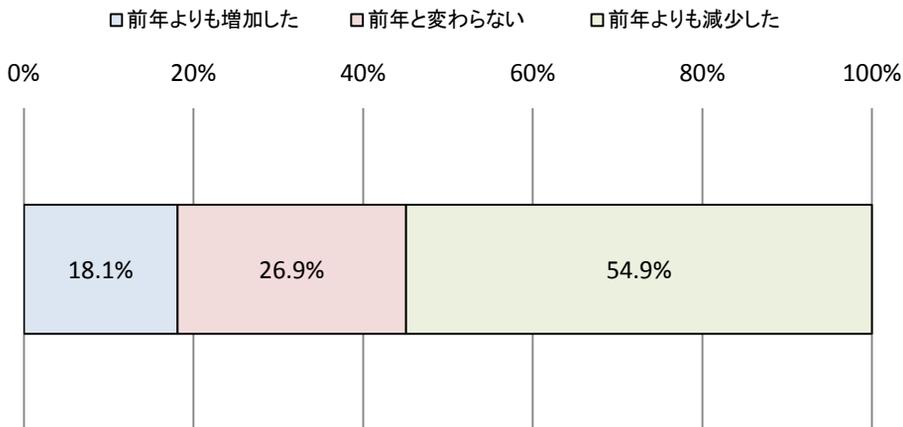
(図表16)規模別：応募者数の前年度との比較



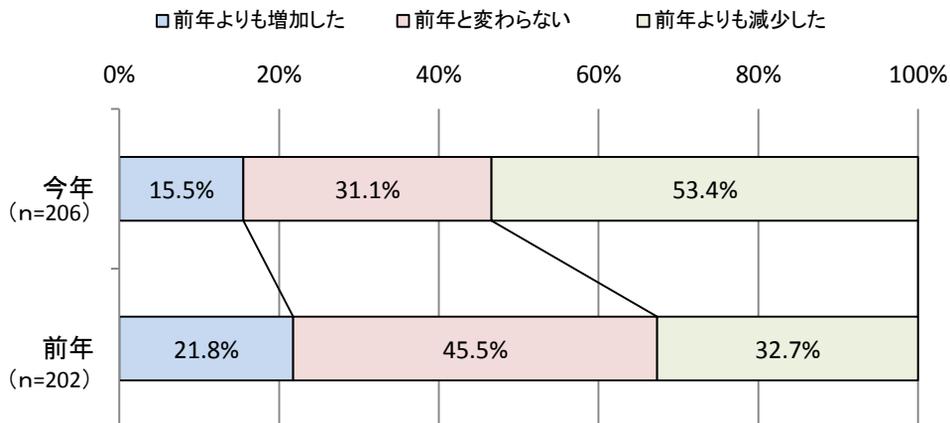
(図表17)業種別：応募者数の前年度との比較



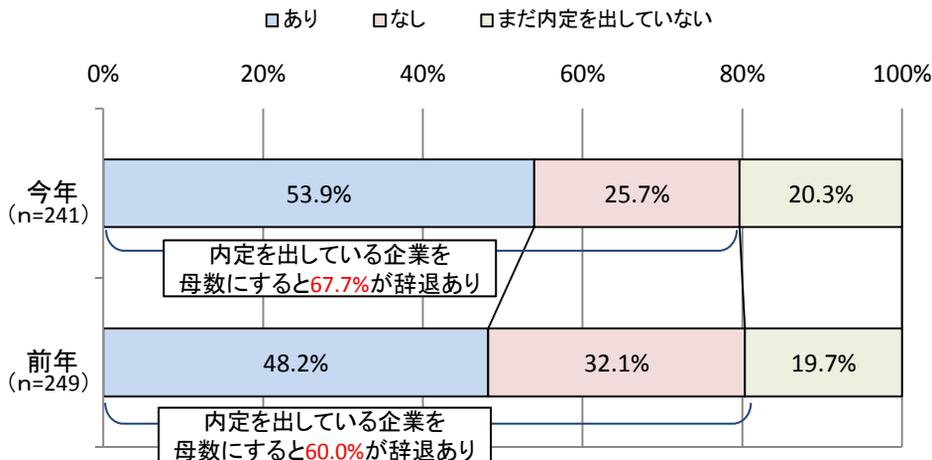
(図表18)会社説明会参加者数の前年との比較 (n=182)



(図表19)面接者数の前年との比較

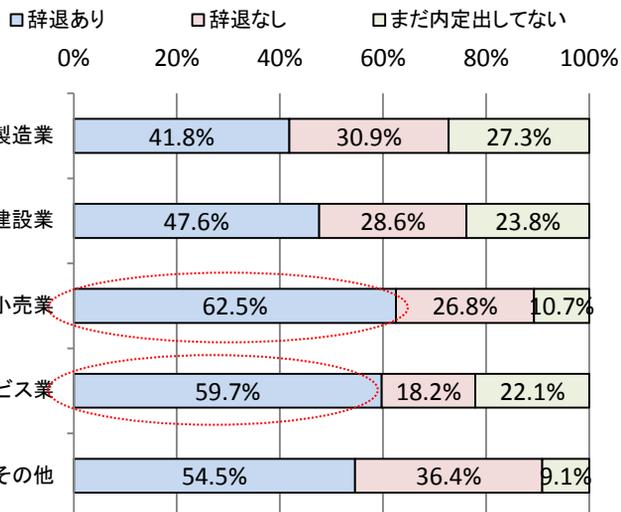
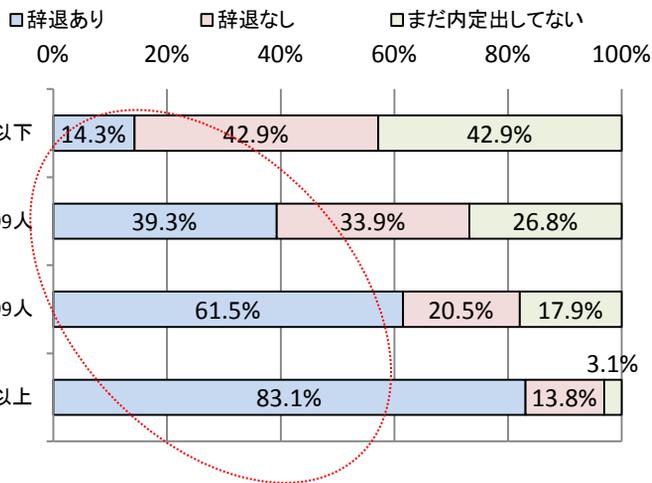


(図表20) 内定辞退者の有無



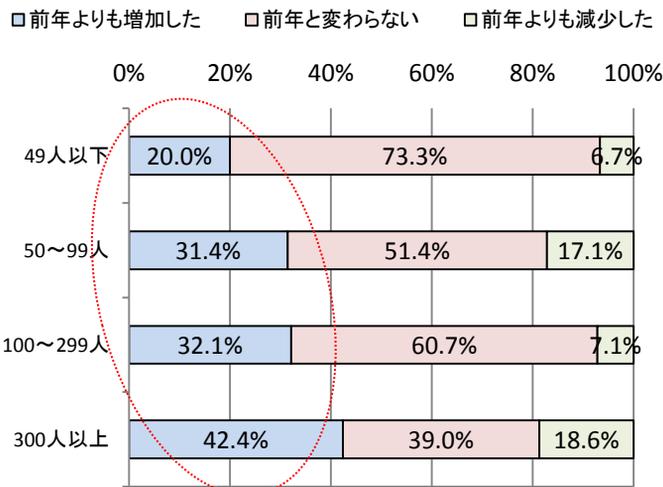
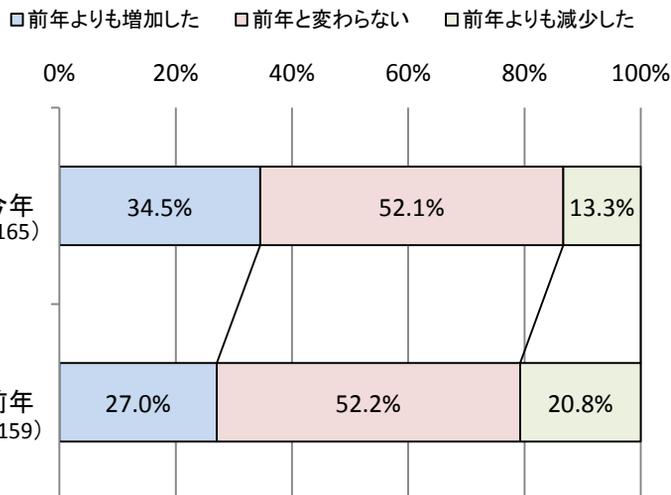
(図表21) 従業員規模別: 内定辞退者の有無

(図表22) 業種別: 内定辞退者の有無

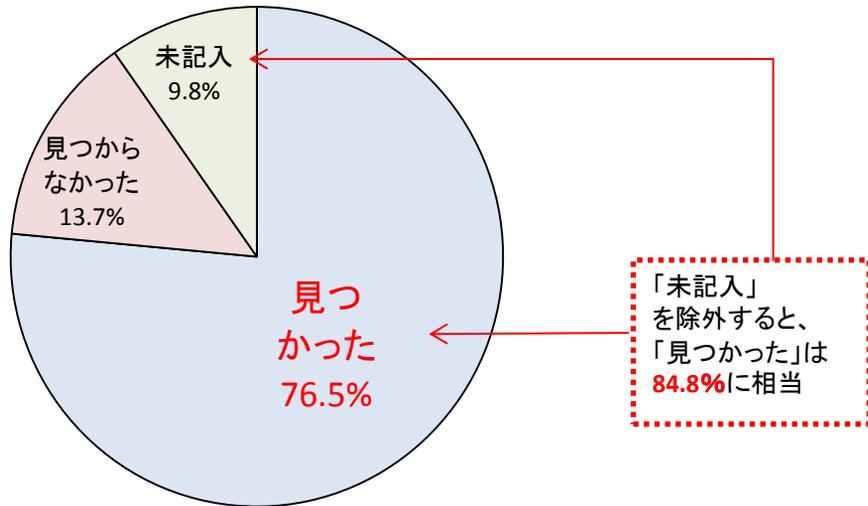


(図表23) 内定辞退者数の前年との比較

(図表24) 規模別: 内定辞退者数の前年との比較



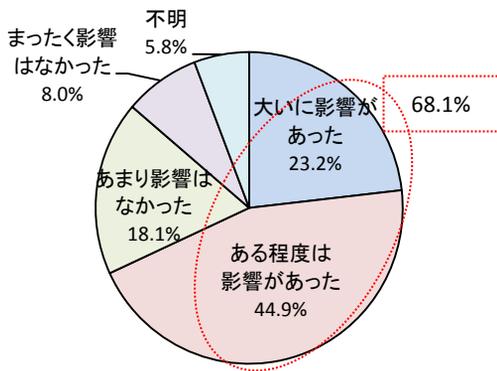
※1 交流会を通して、今まで知らなかった企業で、新たな志望先が見つかったか (n=51)



出所:しずおか産学就職連絡会 2014年7月16日企業と学生の交流会 参加学生アンケート結果

※2 内定理由の伝達が入社決定に与える影響

■内定理由の伝達が入社決定に影響を与えたか (n=138)



■内定理由の内容及び伝達の程度と入社決定への影響

評価されたこと (n=123)	%				
	大いに影響があった	ある程度は影響があった	あまり影響はなかった	まったく影響はなかった	不明
具体的に詳しく	46.7	33.3	13.3	3.3	3.3
大まかに	20.3	56.5	13.0	7.2	2.9
内容の説明なし	0.0	40.9	31.8	13.6	13.6

期待されたこと (n=108)	%				
	大いに影響があった	ある程度は影響があった	あまり影響はなかった	まったく影響はなかった	不明
具体的に詳しく	50.0	34.6	11.5	0.0	3.8
大まかに	20.8	54.7	15.1	3.8	5.7
内容の説明なし	13.8	31.0	31.0	17.2	6.9

成長してほしいこと (n=75)	%				
	大いに影響があった	ある程度は影響があった	あまり影響はなかった	まったく影響はなかった	不明
具体的に詳しく	50.0	41.7	8.3	0.0	0.0
大まかに	32.4	43.2	16.2	2.7	5.4
内容の説明なし	11.5	38.5	26.9	11.5	11.5

出所:しずおか産学就職連絡会 2014年5月発表 静岡県における「就職活動時の実態調査」